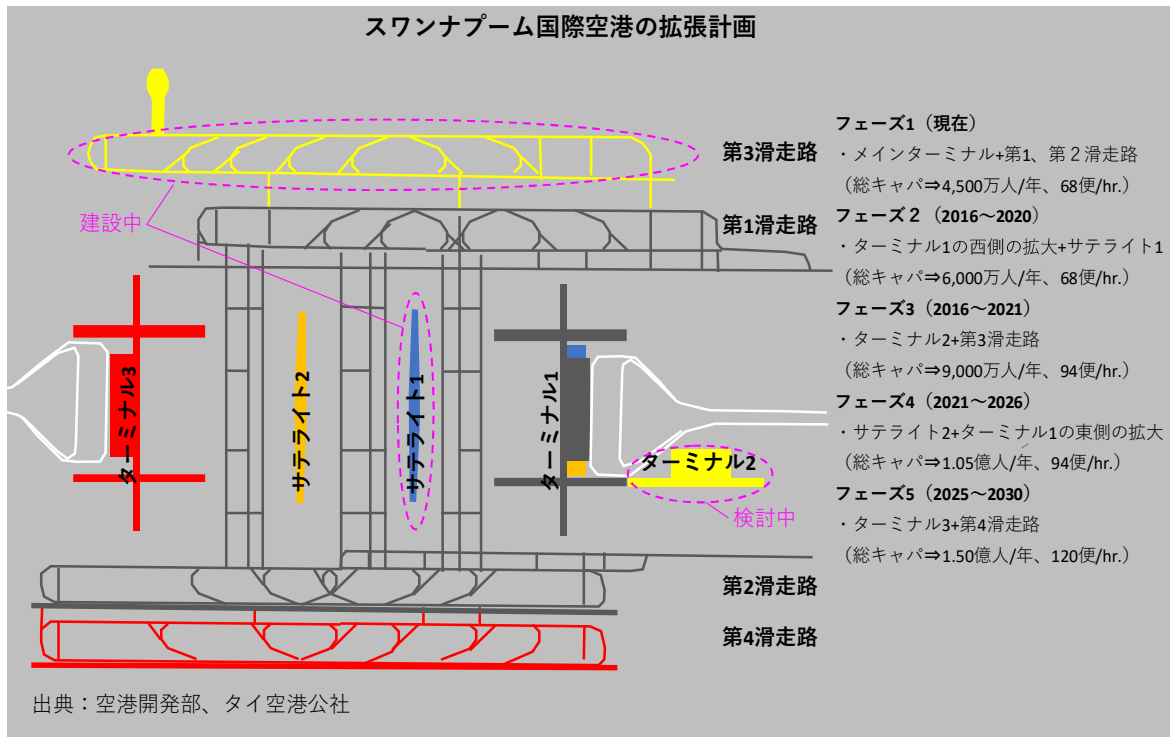


タイの空港及び周辺整備について  
一般調査報告書

タイの空の玄関口「スワンナプーム国際空港」の年間利用者数は約6,300万人（2018年実績）と、想定規模の4,500万人を大きく超えており、入国審査に大変時間がかかることもあります。

混雑緩和のため出入国カードの廃止に向けた検討なども行われていますが、利用規模を拡大するため、同空港では現在、新たなサテライト棟の建設が進められており、ターミナル棟とは地下を通る全自動の無人運転車両でつながる計画となっています。

2020年4月の完成を目指しており、現時点で約50%程度まで工事が進捗しています。サテライト棟の完成によって年間の利用規模は6,000万人程度まで増えますが、今後さらに利用者数の増加も予測されていることから、政府では新たなターミナルの建設や滑走路を増設し、将来的に1億人を超える利用者数を受け入れるよう空港の拡張が計画されています。



また、今年8月に、スワンナプーム国際空港に隣接する場所に、タイで最大規模となるアウトレットモール「セントラル・ビレッジ」が新たにオープンしました。

タイの小売大手「セントラルグループ」が運営しており、約16万平米の敷地に、高級ブランド店からタイの地方の特産品を集めたお土産ショップ、カフェやフードコートなど約150の店舗が出店し、乗用車1500台、大型バス25台も止められる駐車場も併設されています。

(モール正面)



(モール内)



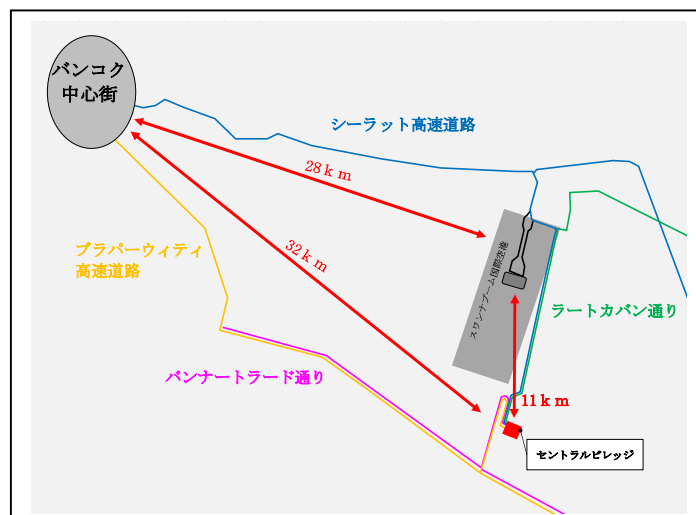
(お土産ショップ)



(レストラン)



空港まで車で約10分と非常に近く、空港を利用される方の帰国前ショッピングなどにも好都合な立地となっており、タイの方もショッピングに多く訪れており、新たな観光施設となっています。



「セントラル・ビレッジ」の開業にあたっては、この用地が飛行経路に隣接していることから、同空港を管理するタイ空港公社（AOT）が安全性に対する懸念を示し、開業直前にモールの出入り口を強制的に封鎖する事態になりました。

新たなアウトレットモールが、スワンナプーム空港で免税店を運営する企業の新たなライバルとなることが背景にあると推測する報道もありましたが、タイ民間航空庁（CAAT）は航空機の安全性に問題ないとして建設の許可を出しており、セントラル側が行政訴訟を起こした結果、裁判所は封鎖の解除を命令し予定通り開業することができました。

空港のすぐ近くに商業施設が整備されることによって、空港としての機能や魅力も一層高まることにつながっていくのではないのでしょうか。

（ファミリーマート）



（フードコート）



（フードコート、日本食も）



（モールのすぐ上を飛ぶ飛行機）



さて、アセアンの空港では、シンガポールのチャンギ国際空港が、空港ランキングで常に上位になるなど、評価が高い空港として知られています。

ターミナルは4つもあり、それぞれスカイトレインでつながっており、年間6,500万人以上の方に利用されています。空港内の雰囲気も明るく清潔で、数多くの免税店や飲

食店に加え、映画館や庭園といったアミューズメント施設など、充実した施設が整備されています。

今年4月には、さらに新たな複合施設「JEWEL」がオープンしました。この施設は、地上5階、地下5階の建物で、280ものショップやレストランのほか、巨大な滝や庭園などのアトラクションや、ホテルなども入る巨大なエンターテインメント施設となっています。

シンガポールは、国土も小さく人口は約560万人（シンガポール人、永住者は約400万人）の小さな国であり、世界から人や投資を呼び込むため、その入り口となる空港の整備に大変力を入れています。

少子高齢化が進むタイにおいても、観光や外国企業の投資など海外から多くの人々を受け入れることが経済発展に重要であることから、スワンナプーム国際空港はじめ、LCCターミナルのあるドンムアン空港や空港間をつなぐ高速鉄道計画といったインフラ整備を進めています。

空の玄関口である空港は、その国・地域の印象を大きく左右します。愛知県の「中部国際空港」では、ボーイング787の初号機が展示された「Flight of Dreams」が2018年10月に開業し、2019年8月には国際展示場「Aichi Sky Expo」が、同年9月20日には、LCCターミナル（第2ターミナル）がオープンするなど新たな施設の整備が進んでいます。

年々魅力の高まる中部国際空港を利用し、国内外から多くの観光客、ビジネスマンの方々に愛知県へお越しいただきたいと思っております。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

バンコク産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。

本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じましても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。